

## 平成25年度の相談室活動を振り返って

### (1) シャイニングクラス（適応指導教室）

4月の学級開きでは2名のスタートでした。9月と12月に途中入級した2名は学校復帰し、現在は2月入級の1名が加わり3名の在籍です。今年度は138日の学習日数でしたが、4月からの2名は遅刻もなく、学習も集中していました。体験活動を含め、様々な場面から成長を感じます。

### (2) リスタートクラス（青少年の自立支援活動）

毎週月曜日の活動日には3、4名のメンバーでしたが、就労相談や悩み相談、学習来室など9名の若者が相談員の支援のもと活動を進めました。アルバイトに挑戦し、運転免許を取得し自信をつけた通信制高校生がいます。親元を離れて県外での仕事に意欲燃やす若者もいます。話をする仲間がいること、居場所があることでリスタートクラスのメンバーは精神的安定が図られているように思います。

### (3) 教育相談活動（25年度2月末現在）

相談内容	件数（割合）
① 学業生活（学習、生活）	55（24.0）
② 不登校	26（11.4）
③ 自立支援（中卒以上）	115（50.2）
④ 学校・教育（意見・要望）	4（1.7）
⑤ その他（成人相談他）	29（12.7）
計	229（100）

2月末の相談件数と内容は左の表の通りです。昨年度に比べ、全体の相談数は大幅に増加しています。特徴は、定時制・通信制の生徒や高校中退者の自立支援相談が割合として半数を占めたことです。また、その延長上にある成人相談も増加しています。このことは、若者の自立を促したり、保障するための受け皿や制度が整っていないことが要因のように思います。

学業生活相談の割合は全体の約4分の1でした。不登校に関わる相談数も前年度を上回っています。

相談内容の概要は以下の通りです。

- ① 学業生活相談・・・小学校入学を控えた就学前の相談（集団生活への適応・性格・学力の心配、発達障がい）  
素行不良対応相談、家庭での乱暴な言葉遣いや反抗的な態度への対応相談。
- ② 不登校相談・・・不登校傾向の家庭生活相談、学校との連携のあり方や親の関わり方、進路相談。
- ③ 自立支援相談・・・定時制および通信制高校生の学習相談、高校中退者の就職相談、高卒資格の取得相談、  
これからの生活相談。
- ④ 学校、教育相談・・・子ども理解や指導への不信相談、我が子の活躍の表彰の要望
- ⑤ その他（成人自身の相談）・・・職場での人間関係づくり、精神疾患の生活相談、引きこもり対応相談。

### 「気楽に話し合う会」（猛吹雪の2月21日） 次年度につながる建設的なご意見

保護者の本音や経験談など、話を聞くだけでも有意義な時間となっています。高校に進学し立ち直ったお子さんを持つお母さんや、現在シャイニングクラスで学ぶ子を持つお母さんから建設的なご意見をいただきました。「横のつながりをもっと強めたい。市報などのPRにもう一工夫があればいいのではないか。」「不登校を受け入れるまでの家族の葛藤が大変であるので、体験談を掲載して自分達だけではないという思いを共有できたら心が安らぐと思う。」「経験者である私たちは、電話ボランティアも可能である。」等でした。検討していきます。

## <リスタートクラス>

## 「出発」Mさん1人暮らし、Kくん就職。

3月から、Mさんが東京で1人暮らしをすることになりました。先日、パステル画の講師としていらしてくださった藤原絹子先生がブログにMさんのことをこんな風には書いていましたので、紹介いたします。

『近く山形を離れて関東に漫画の仕事を開拓するために行く、という方がいて、Oh!ブラボー!と思いました。彼女の勇気、たたえました♪自分がやりたいことだから、勇気出してやってみる 責任は自分が取ればいいし、なんでもいい経験になるんだからね 彼女の描く漫画も見せてもらいましたが、何とパワフル!♪ とてもポテンシャルを感じました』



「パステル画アート体験」  
講師：藤原絹子氏 2月20日

地元で再就職が決まったKくんも一歩踏み出せたこと、とても嬉しく思います。他のメンバーも大きく成長できたと実感できる1年間でした。今年度も関係者のみなさま、ありがとうございました。

## <シャイニングクラス> (適応指導教室)

## 茶話会で“修了の会”

シャイニングクラスも年度末を迎え、去る7日(金)「修了の会」を開催しました。諸事情によりセレモニー形式は抜きにし、茶話会の中で、反省や今後の目標を発表することにしました。しかも、お茶菓子は短時間で手作し、教科指導の先生方に感謝の気持ちを伝えようと、直前に取りかかりました。窓際の雪で冷やしプルプルのコーヒゼリーが目前に出てくるはず?でしたが、トロトロ??予想外の前段になってしまったのですが、会は始まりました。

生徒たちの思い出で意外だったのは、畑の作業を通した収穫の喜びを挙げていることです。「はじめ土をさわるのがいやだったが、土の匂いを感じ成長を見、収穫したときはうれしかった。芋の子汁を作り食べてもらえたことはほんとに楽しかった。」と。土にまみれ顔に汗してというほどではないにしても、自然の中で最後まで努力したことが成果として実感できたのでしょう。素朴な生徒たちの本心を垣間見ることができ、うれしくなりました。

今後の目標として生徒たちはそれぞれ、学校への復帰と進路決定を公言しています。最後の1年あるいは2年間という残された中学生としての時間の使い方を、見つめ考えてきた証なのでしょう。即新年度完全な復帰ではないのですが、この間エネルギーを溜め込むと同時に気持ちを整理して見出した結論なのだろうと、胸が熱くなりました。同時に、大きな拍手が沸き起こったのはもちろんです。教科担当の先生方からも温かい励ましをいただき、会を閉じました。

昨年4月から今年10日までの全体の通級率は何と94%と、非常に高い状況でした。家庭・保護者の理解



シャイニング「修了の茶話会」

や協力そして生徒たちの努力に大きな拍手を送りたいと思います。そして、彼らのあの公言を有言実行に移すべく、新年度新たな風を起こしていきたいと思っています。

### あ と が き

先日参加した「カウンセリング研修会」の中で、子どもがはじめの加害者・被害者・傍観者にならずに生きていける力をつけるために、家庭では家族の一員として役割をもたせることが大事であるという話がありました。家事手伝いをしている子は、目立たないけれどもしっかりしているといいます。「任せる」ことは、余裕がないと逆にイライラしてしまいますが、子どものできることを奪わずに、「責め立てる任せ」から「力を借りる任せ」への意識転換を図り、感謝の言葉のシャワーや褒める事を増やすことが生きる力に繋がるのであろうと思います。まずは、少しずつ身の自立育てを。

今年度の最終号になります。 感謝。

### 教育相談室担当者

- ダイヤルなんでも相談 鈴木
- TEL 23-7266
- 適応指導教室(シャイニング) 林・小野
- 青少年の自立支援(リスタート) 菅蒲
- TEL 22-2111
- (内線 445、448)